

438) 風呂

小生は風呂があまり好きではない。どちらかと言うと嫌いかも知れない。嫌いと言うより面倒くさいのと、貧乏性のためかその時間がもったいないのである。入らないで済めばそうしたいと思うのだが、背中がかゆくなるのと、女房殿が入らないと家に入れてくれないので、入っているようなありさまである。だから女房殿が里帰りなどしているときは週に一度か、せいぜい二度ぐらいしか入らない。先日女房殿に風呂を沸かしてくれと言われたので、嫌々沸かしたのだが、入ろうとしたら、ほとんど水の状態で、エラく叱られた。しかしこんなのはむしろましなほうで、先日は風呂を沸かしたつもりで素っ裸になって風呂場に行くと、お湯どころか水も入っていない。本を読むのに夢中になっていて、女房殿の命令にフンフンといい加減な返事をしているうちに、つつい湯を入れたつもりになっていたのである。仕方なくまた洋服を着て仕切り直しと相成った次第である。

こんなことだから先日も電気釜にスイッチを入れてさあ飯を食うぞーと宣言したところまでは良かったのでありますが、お釜を開けてみると、ただ保温になっているだけで、ものの見事にご飯は炊けてなかったのであります。